

ぼくの家では、三年前からカブト虫やクワガタを飼育しています。三年生の時に小学校でカブト虫の幼虫を育て始め、その後家で飼育したことがきっかけです。三年生になるまではあんまりこん虫が好きではなく、興味も全くなかったのですが、家で育ててみると動きがかわいかったり、ゼリーにしがみついて食べる姿がおもしろかったりして、すっかりカブト虫の飼育にはまってしまうました。

去年は、初めてクワガタの飼育にちょう戦しました。弟の友達からわけてもらったり、自分たちで採ってきたものなどを飼育したりして、たまごからの羽化にも成功しました。

今年の夏は、羽化したクワガタやこう入したもの、おまけでもらったカブト虫など総勢十二ひきでのスタートとなりました。

おまけでもらったのは、お母さんの知り合いの八百屋さんからで、カブト虫はたまごをたくさん産んでもしろいよと教えてもらいました。七月七日にオスとメスのペアをもらったので、おりひめとひこ星という名前を付けました。家に持ち帰ってゼリーをあげると、すごい勢いで食べ始め、二時間ぐらいでゼリーを一つ完食してしまいました。そして、元気に動き回っていて、ぼくもうれしくなりました。大きな飼育ケースにいっしょに入れたら、すぐに土にもぐっていつてしまいました。もつと見ていたかったけれど、仲良くなる

といいなと思いました。

二週間ぐらいたったある日、土の上に白くて丸いものがありました。何だろうと思って見てみたら、たまごでした。うれしくなって土をほって見てみると、四十個近くたまごが見つかりました。前に飼っていたカブトムシはペアで同じケースに入れていても、全然たまごを産んでなかったもので、とびあがりたくなるほどの気持ちをおさえながら別のケースに移しました。

たまごを見つけてから二週間ぐらい経ち、たまごがほぼ幼虫になりました。親のカブト虫のケースのゼリーを交かんしようと思っていたら、また白くて丸いものが見えました。まさかと思いついて返してみると、また三十個近くのたまごを発見しました。図かんで調べた時には、日本のカブト虫は三十から四十個のたまごを産むと書いてあったので、一回の産卵で終わりだと思っていましたが、そのあとも三度目の産卵があり、ぼくがはあくできていただけでも、百五個のたまごをみつけることができました。

かん境が良かったのか、カブトムシのオスとメスがもともと体が大きかったからか、原因はよく分かりませんが、今度は、たまごや幼虫のお世話がいそがしくなりました。生き物を飼うことは、命を預かることです。こん虫一匹きずつにも性格のちがいや育ち方にちがいがあって、見えてあきません。ぼくの家のカブト虫やクワガタには名前も一匹きずつ付けてあります。

毎日、ゼリーを取りかえたり、きりふきで水を土にかけたり、土を交かんしたりするのは正直に言うとうと、とても大変でやりたくないなど思う日もあります。ぼくや弟が世話をやめてしまったら、おそらくすぐに死んでしまうので、大変でも、命がある限り休まず世

話を続けていかななくてはいけません。

百ぴき以上のカブト虫の幼虫は、ぼくの家で今すくすく成長中です。全部を家で育てるのは、ケースやスペースの関係で難しいので、大切に育ててくれる人を探していきたいと思っています。

ぼくのお父さんの話では、お父さんの子どもころよりもカブト虫やクワガタが少なくなっているそうです。お父さんの子どもころは、実家の山ですぐに見つけられたそうですが、今は、あまり見かけなくなつたと言っていました。様々な原因があると思いますが、地球温暖化も、その一つであると思います。ぼくの大好きなカブト虫やクワガタがいつまでも快適に暮らしていけるようなかん境がずっと続いていくといいです。

そのためにぼくができることは、フードロスをなくすことです。学校で牛乳やごはんが残っていることはもったいないと思つていたので、このクラスみんなに声をかけて、協力してフードロスをなくすことがぼくにできる地球温暖化を防ぐ方法だと思つています。九月から給食が始まるので、この方法を実行していきたいです。

来年、カブト虫がたくさん成虫になるように、毎日のお世話をがんばっていききたいと思つています。